

令和2年12月24日
三条地域振興局企画振興部

新たな「にいがた県央マイスター」を認定します。

令和2年12月4日に開催した「にいがた県央マイスター選考委員会」において、下記の者が「にいがた県央マイスター」にふさわしい者として推薦されました。

三条地域振興局では、当委員会からの推薦を受け、下記の者を「にいがた県央マイスター」として認定します。

記

1 認定者について

- 称号区分 本目立て技術（おろし金製造）
- 氏名 笠原伸司（株式会社ツボエ代表取締役）
昭和46年生まれ（49才）
- 認定日 令和3年2月5日
（同日に認定賞授与式を行います。）

※ 認定者の詳細については別紙参照

2 その他

新マイスターについて、本人へのインタビューや工場見学等の取材を受けますので、下記まで御連絡ください。

(1) 取材可能日時

令和3年1月27日、28日、29日のそれぞれ午前10時から正午まで

(2) 取材連絡先

株式会社ツボエ（電話番号 0256-64-2772）

(3) 留意事項

企業秘密に当たる技術がありますので、一部撮影を制限させていただきます。

本件についてのお問い合わせ先

三条地域振興局企画振興部地域振興課 〔担当〕高畑・松井
（直通）0256-36-2204

笠原伸司氏のご紹介

今まで銅にしか施せなかった「本目立て※」をステンレスやチタンなどの難加工金属に適用するなど、本目立て技術の応用分野を拡大したパイオニアで、本目立て技術（おろし金製造）における第一人者

笠原氏は幼少の頃より工場に出入りし、父の指導の下で「本目立て」の技を学ぶ。

株式会社ツボエに入社後、日本特有の食文化である「おろし」の歴史や道具の研究に取り組む。本目立てのおろし金の良さを再認識し、調理用品で一般的なステンレス鋼を用いたおろし金の製品化に挑戦。

今まで職人としての経験や勘に頼っていた加工条件を精緻に把握し定量化することにより、ステンレスやチタンなどの難加工金属に本目立てを適用することに成功。これにより本目立てによる多種多様なおろし刃を精密かつ安定的に製造できるようにした。

また、曲面に対しても本目立てを施す技術確立し、家庭用おろし金だけでなく業務用加工機へも利用されるなど、本目立て技術の応用分野の拡大と需要の喚起につなげた。

令和2年、「ツボエの極上おろし金 箱-hako-」がステンレス鋼に特殊な本目立てを行っていることなどが評価され、グッドデザイン賞 2020BEST100 を受賞。



ツボエの極上おろし金 箱-hako-

〔笠原伸司氏プロフィール〕

昭和46年に「本目立て」による製造を業とするツボエ製作所（現「株式会社ツボエ」）の4代目として生まれる。

平成5年に株式会社ツボエに入社後、難加工材であるステンレスやチタンの「おろし金」の本格生産に取り組む。その後も創意工夫を重ね、「本目立て」の適用範囲を家庭用から業務用機械まで広げた。

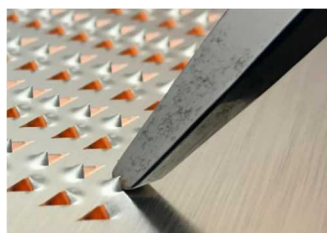
平成22年株式会社ツボエ代表取締役役に就任し、現在に至る。



※「本目立て」とは

鑿（たがね）でひと目ずつたたいて彫り起こし、おろし刃を造る技法を「本目立て」という。元来、本目立てには加工し易い銅板が用いられてきた。

本目立てで掘り起こされた刃は、プレス機で成型された刃に比べると、切れ味と耐久性に優れる。



鑿により一目ずつ掘り起こされた本目立て



一般的なプレス機で一気に成形したもの